

花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. 06

H29年2月22日号



チューリップフェアに向けた ワークショップ②を開催しました

昨年 11/16 に作成した冬花壇から、来年春のチューリップフェアに向けて、ワークショップ（デザイン編）を行いました。実際に冬越しした花壇を見ると、寒さに負けてしまった苗やまだ芽が出ていない球根があるなど、冬特有の課題が見受けられました。

今回の施工編で今年度のワークショップは終わりになるので、今回は最後の座学でした。秋、冬、春と四季を通じて花壇をデザインするのは難しかったかもしれませんが、手入れの仕方や、ご家庭で実践できるデザインも身に付けられたかと思います。

これからだんだんと温かくなり、花壇も賑やかになってきます。チューリップフェアに向けて、素敵な花壇を作りましょう!!

日時：平成 29 年 2 月 22 日（水）
13:30～15:30

場所：馬見丘陵公園ボランティアハウス
参加者：21 人

◆ 当日のスケジュール ◆

- 13:15 受付
- 13:30 全体説明、前回施工の振り返り
- 13:50 現地講習
- 14:25 休憩
- 14:35 デザイン講習
- 15:25 アンケート、次回予告、終了



前回施工(11/16)からの振り返り

11月16日の花壇施工から本日のワークショップまでの間で植えた植物たちがどのように成長したか、振り返りを行いました。

冬花壇は全体的に暖色系にまとめるイメージだったので、赤やオレンジ、紫など冬らしい色の花を多く植えました。樹木類もギョリュウバイやジャノメエリカ、スキミアなど、花壇後方の樹木と対比させて花の付く低木類を多く配置しました。

施工した当初は色鮮やかに咲いていた花たちですが、いくつか冬の寒さに負けて枯れてしまったものもありました。ガーデンシクラメンやパンジーは、中には枯れてしまったものもありますが、これからだんだんと気温が上がってくると元気を取り戻します。ストック（高性）もなかなか花が付きませんでした。2月中旬ごろから蕾が付きはじめました。

冬を乗り越えて、これから花たちが一気に活動を始めます。球根たちも順々に芽を出し始めました。次回の施工（3/15）までの間にも成長し、春花壇では 1/3 くらいの苗を入れ替えるので、冬花壇からは雰囲気ガラリと変わります。春に向けて、変化を楽しみましょう！



▲施工当日のガーデンシクラメン（左）とストック（右）



▲3か月後のガーデンシクラメン（左）とストック（右）



春の花壇のデザイン

暖色系→パステルカラーに

冬の花壇では暖色系にまとめていましたが、暖色系の者は撤去し、淡い色の花を代わりに入れ替えて、春の花壇ではパステルカラーに変化させます。

●撤去する植物

ストック	クリスマスローズ	スキミア	ハボタン	シロタエギク	ガーデンシクラメン
カルーナ	ツボサンゴ	キンセンカ	パンジー (赤紫)	プリムラ・マラコイデス	

●新たに植える植物

キンギョソウ	マーガレット	ルピナス	アイランドポピー	リナリア	ワスレナグサ
クサンセマム	ネモフィラ	デージー	ロベリア	ロータス	

●据え置きする植物

ゴールドクレスト	ジャノメエリカ	ギョリュウバイ	ネメシア	スイートアリッサム	パンジー、ビオラ
スイセン	ヒアシンス	チューリップ	アネモネ	ムスカリ	



現地講習：春に向けた花壇の手入れ

冬の寒さに負けてしまった苗でも、これから春に向けてまた元気を取り戻します。花が付きやすいように枯れた花の花殻を摘んだり、必要に応じて追肥（栽培途中に生育状況に応じて与える肥料）をしてやることで、これから花を咲かせる手助けとなるので、用法・容量に合わせて与えて肥料も与えてあげましょう。

① 枯れた花・葉の摘み取り



寒さや日照不足等で下葉が黄色く変色してしまう場合があります。この葉は放っておいても元に戻ることはありません。中心の茎を折らないように注意しながら、葉を摘み取りましょう。傷んだ葉を取ることで、その分の栄養を他の葉に分け与えることが出来ます。

黄色くなって自然に落ちた葉は病害虫の発生を予防するために掃除しておきます。

◀ 下葉が黄色く変色したストック



花期が終わった花は、花が付いている茎の根元から摘み取ります。（ニュースレターvol.2 参照）パンジーは花殻摘みをしてやると5月頃まで花を付け続けるので、こまめに摘み取りましょう。また、花を咲かせたままにしておくと、種をつけます。種をつけると栄養がそこに集中してしまうので、見た目が悪くなるだけでなく、病気にもかかりやすくなります。

◀ 花期が終わって枯れたパンジー

② 追肥の与え方（微粉の場合）



今回のワークショップでは「微粉ハイポネックス N-P-K=6.5-6-19」という肥料を使用しました。「微粉」とは粉状の肥料で、水に溶かして使用します。肥料には土に混ぜ込む固形状のものや土の上に置く固形状のもの、薄めて使う液状のもの、そのまま使う液状のものなど様々なタイプがあるので、使い方をよく読んで使用しましょう。ここでは「微粉」タイプの肥料の与え方を説明します。

今回使用した肥料はN（窒素）-P（リン酸）-K（カリウム）=6.5-6-19なので、カリウムの割合が多くなっています。窒素は葉や茎、リン酸は花や果実、カリウムは根の生長をサポートしてくれるので、今回使用した肥料は根の生長を助ける成分が多くなっています。

追肥は速効性の肥料です。与えてから3～4日で効果が表れますが、10日程度しか持続しません。目安として、2週間に1回の頻度で与えてあげましょう。



① 肥料を与える前に、花殻摘みや傷んだ葉を取るなどして、これから花をつけやすい状態にしておきましょう。



② 肥料を量ります。今回は1000倍に薄めるので、10ℓの水に対して10gの肥料を計量スプーンで量ります。

※大抵購入時に計量スプーンが一緒に付いています。



③ 肥料が水にしっかり溶けるように、かき混ぜます。ジョウロの「こし網」を使うと、ハス口に溶け残りの肥料が詰まることが少なくなります。



④ 通常の水やりと同じように植物に与えます。肥料を与えた後に更に水やりをすると、水のやり過ぎで根腐れの原因になるので気を付けましょう。



デザイン講習:花壇の植える苗の数量の出し方



花サポーター花壇のように、広い花壇にたくさんの苗を植えるときには、苗をいくつ購入するか計画しなければいけません。今回は図面上で花壇に植える苗の数量の出し方を勉強しました。

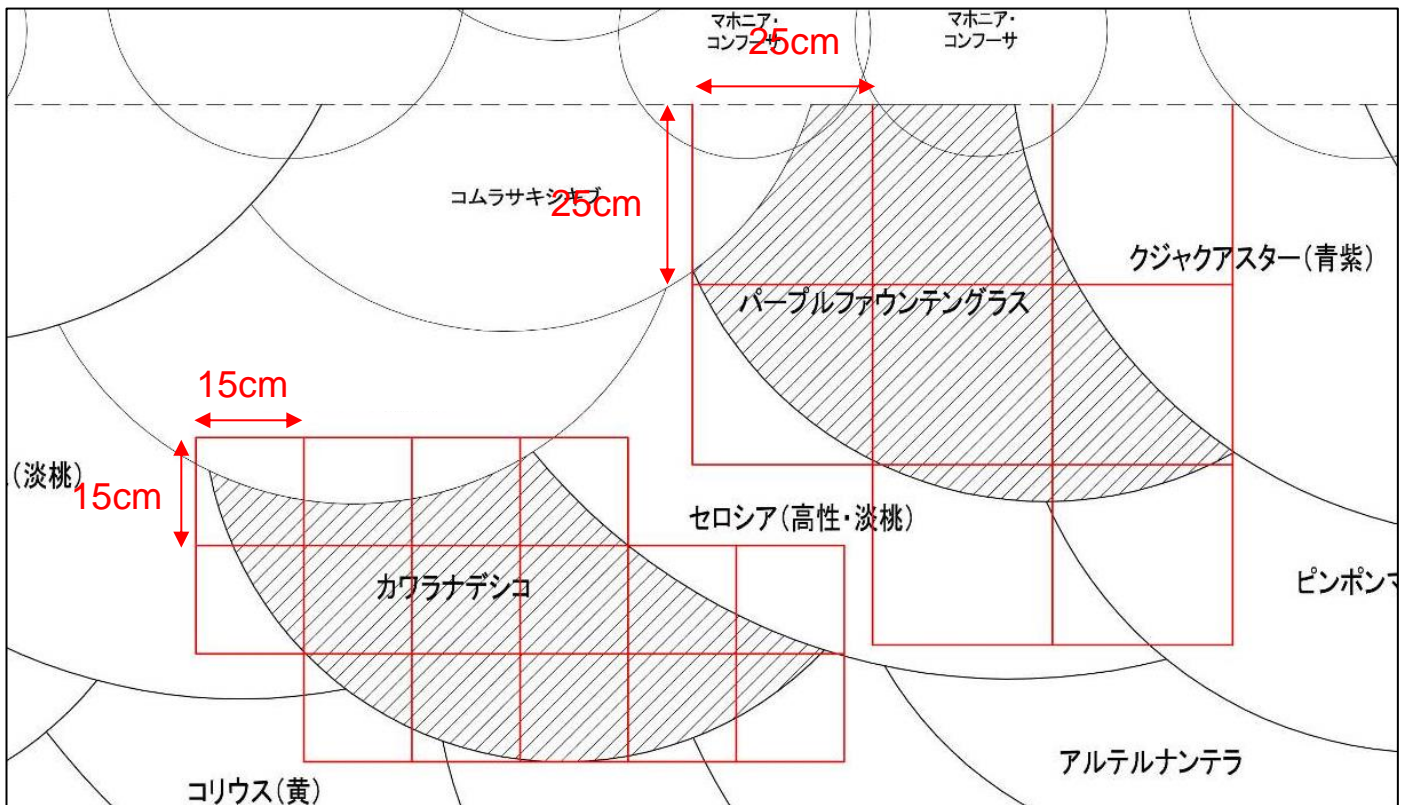
例えば、下図のような形の範囲にパープルファウンテングラスとカワラナデシコを植えるものとします。パープルファウンテングラスを 25 cm 間隔で植えるとなると植栽密度は 16 株/m²、カワラナデシコを 15 cm 間隔で植えるとなると植栽密度は 44 株/m²となります。(テキスト P 20 植栽パターン図参照)



下図の形の面積を測るのは難しいので、それぞれ 25 cm と 15 cm の間隔の線を引きます。この時、図面が何分の 1 で書かれているか注意しましょう。1/10 の縮尺で書かれている図面の場合は、2.5 cm、1.5 cm の間隔で線を引きます。

四角で囲んだ線の中に、植える範囲がどれだけ含まれているかを数えると、そこに植える株数が分かります。パープルファウンテングラスは約 4 マス、カワラナデシコは約 9 マスなので、この範囲にはパープルファウンテングラス 4 株、カワラナデシコ 9 株を植えることになります。端数が出た場合は、株数を 1 つ多くした方が現場では調整しやすいです。

植栽密度に決まりはありません。成長後の大きさを考えて余裕を持たせて植えますが、イベントなど短期間で豪華に見せたい場合は密度を高めになります。



正円や長方形など、面積を計算で簡単に出来る場合は

(花壇の面積) × (植栽密度) = 植える株数

となります。植栽密度を 25/m² とすると、

半径 1.0m の正円の場合、

$$1.0 \times 1.0 \times 3.14 \times 25 = 78.5 \rightarrow 79 \text{ 株}$$

3.0 × 1.5 の長方形の場合、

$$3.0 \times 1.5 \times 25 = 112.5 \rightarrow 113 \text{ 株 となります。}$$

